

はるかのひまわりフォトモザイクアート

府中市が誕生してから60年の間、日本は様々な自然災害の惨劇を経験し、誰もが災害の恐ろしさと同時に、命の大切さや人々との絆、そして世界中からの支援のありがたさを知りました。

市では、このことを風化させることなく次世代に伝えていくため、市制施行60周年記念事業の1つとして、はるかのひまわり絆プロジェクトに参加しています。みなさんにはこの「はるかのひまわり」の種を配布し、育てていただきました。

そして、このひまわりと一緒に撮った笑顔の写真でフォトモザイクアートを作製し、10月18日に開催した市制施行60周年記念式典前夜祭「Happy Anniversary♥府中〜おめでとう私たちのまち」で発表しました。



前夜祭でのお披露目の瞬間！



このモザイクアートの絵は、はるかのひまわりの絵本の表紙が題材となっています。

はるかのひまわりとは？！

平成7年1月17日、大きな地震が神戸を襲いました。木造の建物は、2階部分が崩れ落ち、1階は完全に押しつぶされていました。

はるかちゃんがガレキの下から発見されたのは、地震発生から7時間後のことでした。震災から半年、はるかちゃんの家があった空き地。はるかちゃんの遺体を発見した場所に力強く、太陽に向かって大輪のひまわりが、咲いていました。

はるかちゃんのお母さんは「娘がひまわりとなって帰ってきた」と涙し、近所の人たちは、このひまわりをこう呼びました。『はるかのひまわり』と。